



発行所
日本工業大学
広報課
埼玉県南埼玉郡宮代町
郵便番号 345
電話 0480(34) 4111

中小企業の育成と指導にあたる
とともに、それらに関連した多
くの審議会委員などを兼ね、産
業界に新しい息吹を注入した功
績は大きい。また、日本工業標
準調査委員会としてJISの制
定に果たした功が認められ、
四十四年、藍綬褒章を受賞して
いる。

吉田衛前学長逝去される



本学前学長・名誉教授である
吉田衛氏が、二月十日午前七時
三十八分、心不全のため入院先
の東京都新宿区の社会保険中央
相互病院で逝去された。享年七
十四歳。

深かった人が多数参列して、故
人のご冥福をお祈りした。
吉田氏は、戦前、航空機業界
で活躍。航空機エンジンの研究
や開発設計に苦情熱を傾け、
航空機の生産に大きな功績を奉
げた。戦後の一時は、教育界
にあって、学生の教育指導に専
念するとともに、新制大学学制
の確立に努力した。
その後十年間、東京都におけ
る機械金属・化学・工業部門を
主体とした試験、研究、指導機
関である東京都立工業奨励館で
研究活動を推進するかわり、
同館館長として館の運営や行政
面で手腕をふるった。この間、

工業奨励館機械部長に就任。三
十一年十二月―四十二年四月、
同館館長。四十二年四月、本学
機械工学科教授に就任、同学科
主任教授(四十八年九月まで)。
四十七年一月、学校法人東工学
園理事(五十五年三月まで)。
四十七年十月学長事務代理、四
十八年一月学長代行。五十年四
月、機械工学科主任教授(五十
一年十月まで)とシステム工学
科主任教授(五十二年四月まで)
を兼任。五十二年四月、第四代
学長に就任。五十四年六月―五
十五年三月、病氣療養のため休
職。五十五年三月定年退職。

先輩からお祝いの一言

原田茂男



弔辞を読みあげる三浦学長

卒業おめでとう。今日の皆さ
んと同じように、これから卒業
していく同窓生は、一期生か
ら十四期生の皆さんを含めて、
八千名を越えました。
まだまだ多い人数とはいえま
せんが、全国各地で同窓生は活
躍しています。皆さんが就職し

た会社にも卒業生がいる所が
なりあることと思います。
でも、まだ歴史の浅い大学で
すので、卒業したばかりのころ
は、君の母校はどこにあるのか
ねというようなことを言われる
こともあることでしょう。そん
な時は、自信を持って大学の説
明をしてみてください。ここ
で自信を持って言いたいのは、
今、皆さんの先輩が全国に同窓
生の支援組織となる同窓会支部
を作りつつあるからです。
同じ大学を卒業したというこ
とは、たとえライバル関係にあ
る会社に入った人でも、お互い
に相談できるという関係がもて
るのです。お互い顔も知らない
人でも同じ大学を卒業したとい
うことだけで、旧知の間がら
よくなるものなのです。

も現在精力的に支部の設立に向
けて活動をしています。
皆さんが就職する各地域で楽
しい時、悲しい時、共に酒を
みかわすことのできる同窓生が
いることと思います。
さて、同窓会では、もう一つ
大きな事業を今始めています。
すでに皆さんは同窓会会報を読
まれて知っていることと思いま
すが、昭和六十二年の大学創立
二十周年の記念事業として、後
援会と共同で学生会館(仮称)
を建設することになりました。
これは卒業生が大学に訪ねてき
た時に宿泊できる施設や、学生
教職員のための活動に役立
つ施設、また近隣の住民にも利
用できる施設となるよう計画さ
れています。

皆さんは、このような活動を
している同窓会の正会員になら
れたわけですね。皆さんには死
亡まで同窓会会報が送られます。
同窓会には皆さん自身のための会
です。大いに利用活用してく
ださい。

最後に、皆さんが各職場で、
各地域で力一杯活躍されますこ
とを心から祈念いたしまして、
お祝いのことばとさせていただきます。
(日本工業大学同窓会会長)

雪

三浦 勲郎

天元山荘にきている。毎年一度は雪を見に来るのである。山峽にひっそ
りと沈黙しているこの山荘に來ると、気が落ちつく。昨日は東京から雪
の中を走ってきたが、今日は晴れて、空も山も木もきらきら光っている。
この冬はもう二度屋根の雪おろしをしたという。ひと冬に二度ですめば
雪は少ないほう、三度ならふつう、四度なら多い年だという。今年は雪は
まあふつうか、少し多いほうらしい。しかし気温は例年になく低く、寒い
日が続いているという。

北海道ではひどく寒いことをシバレルというようだが、このあたりでは
カンジルという。漢字で書けば、寒むるではなくて、やはり感じるであろ
う。たとえば、今日はカンジコトと言うのである。いい言葉である。
栗子を抜けてから、車の調子がおかしくなった。尻を横に振るのである。
後ろに乗っている私は、船に揺られているような気がする。チェーンはと
つに着いているのだから、もしかしたらパンクではないかと、新井君は心
配して、車を停めて、タイヤを靴で蹴とばしていたが、異常はない。結局
夏のタイヤにチェーンを着けただけだからいけないのだろうかということに
して、用心しながら進んだ。

山荘の手前のスタンドでこの話をすると、それはタイヤのせいではない、
スノウタイヤにしても似たりよったりで、この冬の特殊な現象である、と
いうことであつた。外にくらべて、土の中はあたたかい、地面に接してい
る雪は、いつもの年なら少し融けかかるのだが、この冬は土の中が異常に
冷たく、踏みつけられた雪は完全に氷になっている。その上に新雪がある
と、いわゆる表層雪崩であろうか、タイヤは雪といっしょに氷の上を滑つ
てしまう。そういう話であつた。

この冬は東京でも大雪があつた。一月に三回も大雪が降るのは、前例の
ないことである。東京の雪は、二月の終りから三月の始めときまっている。
二・二六がそうである。あのときは、私の就職が内定したので、友人たち
が新橋で祝賀会を開いてくれることになった。膝までくる雪を踏み分けて
いくと、料亭の前に反乱軍の重機関銃がでんと据えつけられているので、
びびりした。

東京に雪が降ると、みな慣れているので、事故が続出する。この三回
の大雪では、転んで怪我した人は何百人とか報道された。ふだんの革の短
靴で雪の上を歩くのだから、転ぶのはあたりまえである。チェーンを巻か
ずに雪国を走るようなものである。

この東京の異常な大雪といひ、この山形の土の異常な冷たさといひ、自
然界にもなにか異常なものが起こりつつあるような感じがする。
核の時代に入ってから、われわれの心はいつも怯えている。心に疾まし
さがあるから、なんでもそこに結びつけて、震えているのである。そして
それをマスコミはまた掻きたてる。マスコミは報道が任務であるから、世
の中が平穏無事では仕事にならない。なにか変わったことがあると、さっ
とそれに飛びついて、針小棒大に、激烈な表現を使って、報道する。毎日
の新聞にはそういう大事件が満ち溢れている。そして数日すると、すべてど
こかへ消えてしまう。そのあとどうなったかということとは、もはやマスコ
ミにとっては報道の価値はないのである。

今日はまだ新聞を見ていない。雪の情報に関心があつたので、天気予報
をテレビで見ただけである。昨日と違って、よく晴れている。木に降り積
もった雪がときどきとさつと落ちて、粉雪が日光の中に光る。そのほかに
はなんの音もしないし、なんの動きもない。あまり静かなので、栗鼠でも
出てきてくれないかと思う。猿もときどき寄ってくるようである。いつか
この欄でかいた白猿は、一匹死んで、まだ三匹いるそうである。昨夜は、
狸のわなをかけておいた、狸汁を馳走しますよ、と遠藤さんが言ってい
たが、まだなんの話もないところを見ると、取らぬ狸の狸汁になるらしい。

卒業生に贈る

学長 三浦 勲郎



卒業すると、諸君は日本工
業大学の先輩になる。クラブ
の先輩があとまで後輩の
面倒を見ているように、諸君
もまた大学と離れても、いつ
までも大学の成長を見守り、
後輩の勉学を声援してもらい
たいと思う。機会があれば学
校を訪れて、先輩風を吹かせ
てもらいたいと思う。いつも
言うように、大学と諸君の有
形無形の関係は一生切れるこ
とはない。大学は依然として
諸君のためにあり、諸君もま

た大学のためにある。社会に
おける諸君の活躍は即大学の
発展につながるのである。
創立十七年を迎えて卒業
生の数は、諸君を加えると八
千二百名を越える。全国各地
から宮代に集まつてきた人た
ちは、卒業するとまた全国に
散らばって、今ではどの町に
行っても日大出身者がいな
いところはない、と言っても
過言ではない。

同窓会では一昨年から地方
支部の設立が意欲的に行われ
ている。すでに七の支部がで
き、あとまだ幾つかの支部の
設置が予定されているよう
である。今年は正月早々タイの
バンコックに支部ができた。
こちらからも多数の同窓生が
出向き、大層盛大な発会式に
なったようである。

地方に在任する卒業生がそ
の地方単位で連絡を緊密にす
ることには、私も大賛成であ
る。この二月には近畿支部の
発会式に出かけて行って祝辞
を述べた。近畿支部では
かつて後援会のお世話を受け
た方々も出席された。親と子
が一堂に会したという感じで
あった。同窓会自身が親と
なる日も、もう一つして遠
くはないのである。

また若いはずの同窓会も、
早くもいろいろなことをして
くれた。その第一は図書館の
前に立っている彫像である。
瓢と名づけたあの乙女は、
先輩たちに代わって、日夜後
輩の勉学を温かい目で見守っ
ているのである。

こんどはまた、間もなく来
る創立二十周年、学園創立八
十周年を記念して、学生会館
を建てる計画があるようであ
る。

創立二十周年の昭和六十二
年には、卒業生は一万人を越え
る。五千人というのは、卒業
生の半分は、という意味であ
る。それに在校生と教職員を
加えた八千名でもって、校庭
を埋めて万歳を唱えたいので
ある。

これには後援会も協力す
るといふ。また親と子である。
学友会館ができれば、諸君が
大学を訪れたとき、みなで会
合し、会食をし、遠くから来
た人は泊まっていけること
になる。同窓会の拠点ができる
のである。

かつて私は、同窓会会報に
「同窓会館(前はそう呼んで
いた)の落成式はおそらく創
立記念日になるであろうが、
その式典には同窓生五千人が
参加してほしい」と書いたこ
とがある。

給料分以上の働きを志せ

岩瀬 勝



もっている全てを体ごと。
就職先（企業など）では諸君に對して、いずれば企業を背負う人物になつてくれることを期待している。

卒業おめでとう。いよいよ諸君は社会人としての第一歩をふみ出すことになった。諸君の人生の本番が始まる。
スポーツに例えれば、今までが練習期間で、今が試合が始まる。試合開始を前にして諸君の心の中には様々な気持ちが行き交っているであろう。相手は手ごわいかな？ 試合に勝てるかな？ といった不安、心配。あるいは新しい何かが始まるという期待感、等々。
自信をもってぶち当れ。君の

学校で身につけたことが、そのまま、企業で役立つとは限らない。否、すぐ役立つのは体力と気力以外はまず無いといつてもよいからである。企業での仕事はそれぞれに専門化、細分化され、またユニークなものである。学校では聞いたことも習ったこともないことにしばしばぶち当たるであろう。しかし、驚くことはない。諸君の同輩も皆同じなんだ。隣の奴が、何か頭がよさそうで自分よりも仕事が出来そうに見えることがあるかもしれない。しかし君の思い

過ぎなんだ。誰もカッコウをつけたがるものよ。君は判らないことはほとんど先輩上役に教わりなさい。そして自分の肉にするんだよ。
学生時代に一度も「質問」ということをしなかった君であつても、会社で仕事を本気でやろうとすれば、判らないことが必ずあるはずだ。どうしても判らなければ先輩に聴きなさい。判ったふりをすれば、その場はごまかせても後でもっと判らなくなるのだ。
さて、例えば社長以下社員が何十人、何百人、何千人の大小様々な会社があるとすると、いずれの会社でもその全社員をA・B・Cの三クラスに分けることができる。Aは給料分以上の働

きをするクラス。Bは自分の給料分くらい働くグループ。Cクラスは給料分までは働いていないクラスであるという。Aクラスでその会社はもっている。Aクラスの割合が多ければその会社は発展すること間違いなし。Cクラスが多いと赤字経営になつて会社の存立が危なくなる。このABC分類は社員のプロットの上下とは余り関係がない。赤字の会社の経営者は社長でも重役でもCクラスに該当するといえるのだ。
大卒新入社員は、初めはほとんどの場合Cクラスである。それは当然であり恥ずかしいことではない。問題は、いかに早く善実にBクラス・Aクラスになるかである。入社直後



社会にはばたく
スタートラインについた諸君へ

横内 龍雄



卒業おめでとう。
四年間大変でしたね。いや、五、六年間大いにエンジョイしたのもいる。
先生について教わることはもう終わった。

これからは今まで蓄積した知識と技能を發揮して、社会に貢献することになる。
必ず遠い将来の目標と近い先の目標を立てよ。目標のないところへ成果はありえないからだ。そうしたら、その目標達成のため努力して、その職場のエキスパートになれば、すなわち、なくてはならない第一者になることだ。

それには、上司、同僚の協力が必要である。やがて部下をもつては部下の協力がなくては達成できないので、人間関係をうまくやるのが絶対必要である。
人間は仕事、仕事、緊張、緊張の連続ではやりきれないものではない。適当なイキナギが絶対必要。これをうまくやらないとノイローゼになり人生の落伍者となる。
何といつても仕事をすすめるには健康が必要である。
趣味を兼ねたスポーツや、精神衛生上の趣味は大いに楽しむのがよい。

卒業して十年たつと努力したものと、しないものでは大きな身分上の差が出てくる。
それだから、いつもモーション・マインドをもって努力してほしい。
改訂することは、エンジニアにとって特に喜びである。
改善は永遠にして無限である。同和火災海上保険が、二十代から五十代までのサラリーマン合計五百人を対象に激しい競争社会での「自己防衛」ぶりを調査したところ、約六割は「一人に足を引っ張られた経験」を持ち、三人に一人は「足を引っ張られた経験」があると答え、引っぱ

たり、引っぱられたという統計結果がまとまっている。
こうした厳しいサラリーマン社会で自己防衛策ベスト3は、①会社内の人間関係を大切にすること
②仕事にミスがないよう万全の注意を払う
③健康第一で体に注意することとなっている。
つきはお願ひである。
一年に一回は少なくとも研究室へ状況報告をハガキ一枚でもよいからしてほしい。
とくに住所や勤務先が変わった直ちに連絡された。
学祭にぜひ参加して、縦横の連絡をつけてほしい。
結婚式にはぜひ指導教員の出席を求めたい。
さあ新しい人生に張り切ってスタートしよう。
(システム工学科主任教授)

何時でも自力退職できる

プロになろう

長田 重慶



遂に「ゆりかご学園」から追出される時が来たね。
よく、門出に際して社会の厳しさを風邪くすりみたいにくるくると諭す人がいるが、それは不幸な人の経験談だと思う。おしんのような辛抱は他動的なもので、自らが辛抱しようとしたわけではあません。消極的な努力です。故に諸君も辛抱しなくて済むように積極的な努力をして下さい。そして他人が認める自信をつけて下さい。人間として生れたからには、毎日が楽しく、生き甲斐のある生活を送りたい

ものです。しかしながら現実には充実した人が少ないのです。では、どうすればそれが確実に保証されるかを教えます。それは極めて簡単な原理で、大変な努力を要することです。故に若いうちにガムシヤにやれば、それが発達しても不可能のようないやうな人があることを、すなわち、世間一般の人がやることをしないことです。又すなわち、マイホーム主義のようでは良きパパにはなりますが、それはダメでもできることです。誰でもできることは余り価値がありません。無駄な努力はやめましょう。我々はエンジニアですから、自然科学の内の工学系の仕事をしています。

多くの先輩が努力したお陰で今日のような日本の工業が発展しました。しかし残念ながら、多くはコピー技術が主流でありました。単なるコピー産業では低賃金の勝負だけのことで、さら豊かにはなりませんし、また

ため蛇足を一言。
よく学園祭等で恋人らしき女性に取りつかれてるのを見かけますが、全く、実際本当に気の毒なことです。まだ女性抗体ができていないから仕方ないかも知れないが早く回復して下さい。生き甲斐とはそんなに安易なものではありません。考えたくな人がいることです。誰でもすることですから、早く足を洗って考える人になって下さい。ただし同棲と結婚とは別だと悟る人は、別だ。だが日本ではまだおんはないよ。解るかな。それよりも、焦らずに、早く、一生を共にできる自分のテーマを作り出して下さい。それは三十歳までの努力の程が、一生を支配することを銘記して下さい。君はプロのサラリーマンになれるはずだ。
以上、少し難しかったかな。
では諸君、ごきげんよう。
(機械工学科主任教授)

卒業生へ贈ることば

木村 蔵司



卒業おめでとう。蜚雪の功なりここに学業を果した。第一の人生を幼年期、第二の人生を勉学期とするなら第三の人生は成人期であり、本来の人間の真価を發揮する時代である。論語に「我十有五にして学を志し三十にして立ち、四十にして惑わず、五十にして天命を知り六十にして耳順う、七十にして心の慾するところに従つて矩（のり）をこえず」と。なかなかこうはいかないが人人行路のガイドラインであることは確かである。人人行路は険しいものだ。山あり谷あり絢爛たる花園があるかと思えば寒風の変化あり、突風も吹く千変万化の激しい起伏の多い未知の旅路が多いのだ。それだけにしっかりと考えたをもつて対処しなければならな

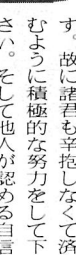
と思う。鎌倉時代の日蓮宗の開祖である日蓮（一二八二―一三三三）は「それ浄土といふも地獄といふも、外には候はず、ただ我等が胸の間にあり。これを悟るを仏といふ。これに迷うを凡夫」といふと本人の心の持ち方を戒めている。
また親鸞は「明日ありと思ふ心のあだ棧、夜半に風の吹かぬものは」と日常における人の心掛けの大切さを説いている。ゲーテは「人間の一生に就いてまた彼の運命全体に就いて決定するものはただ瞬間のみ」と現在只今のその瞬間が大切だと説き、兼好法師は「刹那おぼえずと雖もこれを運びてやまされば命を終る期（き）たちまち至る。されば道人は遠く日月を惜しむべし」と毎日毎日否やその瞬間こそ無為に過ぐすなども教えている。水戸藩の明君徳川光圀は「吉は楽のたね、楽は苦の種と知るべし」と蓋し名言なり。又徳川幕府三百年の治世の基礎を固めた徳川家康（一五四二―一六一六）の遺訓に次の文章がある。

「人の一生は重荷を負うて遠き道を行くが如し。急ぐべからず。不自由を常と思え不足なく、心に望み起らば困窮したる時を思ひ出すべし。堪忍は無事長久の基。怒は敵と思へ。勝つ事ばかりを知つて負くる事を知らざれば害の身に至る。己れを責めて人を責むるな。及ばざるは過ぎたるより優れり」と親掛りの一人暮らしのうちは、その荷物も重くはなからうが家庭を持つと荷物の重さがしじみと感ずるようになる。今からそんな覚悟と心構えをつくっておかれることを望んで止まない。卒業後は故郷に帰つて家の仕事を手伝う者、また親元を離れて遠い土地に就職される者など色々であらうが何処に行つても考へ方は同じだ。明治維新前に活躍した防海僧といわれた月性（一八一五―一八五八）は「男子志を立てて郷関を出づ、学若し成らずんば死すとも帰らじ、骨を埋むるに墳墓の地を期せん。人間至るところ青山あり」と、一つのことを思い立つたら死にもの

ぐるいでやれ、そしてよくよくするなと教えている。また後漢書に「志ある者は事ついに成る」と。更に安田銀行の創立者安田善次郎（一八三三―一九二二）は「世路は平々坦々たるものにあらずと雖も、勇往邁進すれば必ず成功の彼岸に達すべし。勤勉努力節儉貯蓄一日も怠るべからず」とさすが銀行家らしく論じている。
色々我々の処世訓を書いてきたが、最後に一つ、平家物語源平盛衰記の名言を記しておこう。「祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響あり。沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理を顯す。響れる者は久しからず。春の夜の夢の如し。猛き心も終には亡びぬ。風の前の塵におなじ」と。祇園精舎は天竺にある寺の名前で、沙羅は梵語で樹の名前である。双樹は二本ずつ四方に生えた八本の太木を言い、釈迦が涅槃に入つた時（死去）その一本ずつが枯れたという。つまり一切のものは無常であつて不変のものはないという意味であるが、そ

卒業生へ

メッセージ



卒業生へ
メッセージ

機
械
工
学
科

58年度卒業生名簿

3月20日付
卒業確定者

以上
一九八名

電
気
工
学
科

建
築
学
科

以上
一八八名

システム工学科

以上 一七名

機械工学科

卒業計画(研究)一覧

卒業生総数 六八一名

以上 九八名

〔長田重慶研究室〕

〔大川陽康・村川正夫研究室〕

〔石崎敬三研究室〕

〔町山忠弘・寺島幸雄研究室〕

〔池田義雄・小倉 勝研究室〕

〔渡辺 寛・窪田英毅研究室〕

〔松木正勝・横谷真一郎研究室〕

〔漆原富士夫・佐藤茂夫研究室〕

〔鈴木 昭研究室〕

〔玉木 保研究室〕

〔柳沢 章研究室〕

〔酒井茂紀研究室〕

電気工学科

〔大久保勝弘研究室〕

〔岩瀬 勝研究室〕

〔桑田正信研究室〕

〔高橋琢二研究室〕

〔廣瀬治男・谷澤 茂研究室〕

〔八田 達研究室〕

〔堀田勝喜研究室〕

〔高橋篤夫研究室〕

〔木村蔵司研究室〕

建 築 学 科

〔片山滋友研究室〕

〔泰野真佐親研究室〕

〔佐伯正盛研究室〕

〔山口義昭研究室〕

〔広瀬洋一研究室〕

〔宮坂修吉研究室〕

〔三苫正光研究室〕

〔塩原正典研究室〕

〔高橋 恒研究室〕

〔廣川勇一研究室〕

〔難波恒夫研究室〕

〔吉岡 丹研究室〕

〔大萱昭芳研究室〕

〔桑原文夫研究室〕

〔楡井武一研究室〕

〔横内龍雄研究室〕

シ ス テ ム 工 学 科

〔波多野 純研究室〕

〔伊藤庸一研究室〕

〔岩隈利輝研究室〕

〔小羊真一研究室〕

〔榎田 昇研究室〕

〔吉村 浩研究室〕

〔正道寺 勉研究室〕

〔鈴木敏正研究室〕

〔杉本安次郎研究室〕

〔長谷川 洸研究室〕

〔土井 誠研究室〕

〔宮井正弥研究室〕

修了確定者と修士論文テーマ

◎機械工学専攻

◎電気工学専攻

◎建築学専攻

研究室では

20

工業地理学研究室

工業地理学研究室には機械・電気・建築・システムなど全ての学科の、しかも一年生から大学院生まで多様な学生が入り、毎日明るく、楽しく、しかも厳しく研究に励んでいる。みな心から研究が好きで、あるいは好きになった若者達である。研究室に熱気が満ちているのは当然である。このような研究室を、あるいは研究集団を他の大学に見出すことは不可能であろう。

さまざまなテーマで十数年間研究を続けているが、最近はおもに大都市内部の工業をめぐる土地利用、それに、技術集団の構造分析を柱に、それぞれの立場、関心をぶつ

「産業地域社会」の考え方は、現在東京内部や神戸市など大都市内部の再開発や、活性化を進める際の基本的視点となっている。

第二の技術集団の研究は、日本の工業地域システム分析の柱をなすものである。とくに、全国的な生産体系の核をなす京浜工業地帯のなかで、ともすれば忘れ去られ、軽視されがちな東京城南の工場については粘り強く調査を続けている。京浜の工業システムはすでに国際会議等で報告されているが、最初は疑いがちであった零細工場集団の力強さに、一緒に調査に当る学生達も感心している。まさに、日本機械工業の底力を肌で学びながら分析を続けている。

城南の機械工業とともに、台東・墨田・葛飾など城東地域を中心とする雑貨生産のし

大学院第一期生誕生 15人全員に工学修士を授与

大学院の修了判定が二月二十三日に行われ、十五人全員が審査にパスし、大学院第一期生が誕生することになる。内訳は機械工学専攻五人、電気工学専攻三人、建築学専攻七人である。

学部卒業式と同じ三月二十日、午後十二時五十分から会議室で学位記が授与されることになっている。

修了確定者と修士論文テーマ

◎機械工学専攻

「産業地域社会」の考え方は、現在東京内部や神戸市など大都市内部の再開発や、活性化を進める際の基本的視点となっている。

第二の技術集団の研究は、日本の工業地域システム分析の柱をなすものである。とくに、全国的な生産体系の核をなす京浜工業地帯のなかで、ともすれば忘れ去られ、軽視されがちな東京城南の工場については粘り強く調査を続けている。京浜の工業システムはすでに国際会議等で報告されているが、最初は疑いがちであった零細工場集団の力強さに、一緒に調査に当る学生達も感心している。まさに、日本機械工業の底力を肌で学びながら分析を続けている。

城南の機械工業とともに、台東・墨田・葛飾など城東地域を中心とする雑貨生産のし

大学院の修了判定が二月二十三日に行われ、十五人全員が審査にパスし、大学院第一期生が誕生することになる。内訳は機械工学専攻五人、電気工学専攻三人、建築学専攻七人である。

学部卒業式と同じ三月二十日、午後十二時五十分から会議室で学位記が授与されることになっている。

後援会だより

後援会では四十八年以来毎年行っている地域別会員懇談会の開催をはじめとし、特別事業の一環である天元山荘の充実、創立二十周年に向けて記念事業の準備等に大学の興隆発展に寄与することを目的として今年度もその活動を継続的に行ってきま

現在、全国に十三の支部がつかれ熱心な活動が行われているが、今年度も支部が主催するものと本部主催の、合わせて十六会場において全会員を対象に地域別会員懇談会が開催されました。案内には三浦学長の「会員懇談会参加のすすめ」という推薦文書が同封され、これまでになく最高の出席率を記録し、各会場とも会員諸氏が先生方を囲んでの熱心な雰囲気の内盛会裡に終了しました。この懇談会も年々支部活動の活性化とあいまって会員各位の関心度が高揚し、ほぼ定着したとみることができ、一部盛り上がりにつける支部のない地域会員への対処

人事

（二月一日付任用）
柏倉英雄教育技術員（材料試験センター）



58年度 就職活動報告

今年度の就職は好調に推移し、昨年末でほぼ終了した。年々、求人の出足が早まり、早期内定の傾向はさらに強まった。数年前ならば、年が明けても就職先未定の学生は残っており、求人会社からも「残っている学生はいませんか？」との問いあわせがかなりあったが、今年はあまりない。早期求人、早期内定の傾向が定着したせいである。

高校生や大学文系系学生にとっては、今年の就職はかなり厳しかったそうであるが、理工系学生にとっては恵まれた就職環境であった。企業は生産現場の自動化、機械化によって高校生

の求人が多く、エレクトロニクス主導型となっている。製造業以外では、情報産業からの求人が多く、昨年度より約九〇社も増加している。卸・小売業からの求人も相変わらず多いが、最近ではエンジンアリング、ビル管理、非破壊検査などのサービス業からの求人増加が目立つ。半面、石油、石炭、鉄鋼、化学などの素材産業からの求人は少なく、自動車販売業も一頃の勢いはない。また、建設業からの求人は昨年度よりやや減少している。地域別では、東京からの求人が全求人の約六〇％を占め、関東を含めると八〇％となる。依然として、地方からの求人は少なく、Uターン就職希望者にとっては厳しい情勢であったが、静岡と長野については、昨年の五月に、本学が加盟している関東地区大学理工系就職研究会と日本リクルートセンター共催の地方企業セミナーに参加した結果、両県からの求人が増加し、それが就職へ結びついた。

今年度から就職指導室は従来の二倍の広さになり、利用する学生数も昨年度の二倍となった。出足の早い求人に応じ、学生も早期に企業研究を行ない、

積極的に就職活動を行なった結果、昨年内に大多数の学生の就職先が内定した。

〔主な内定先〕
アマダメトロックス・アルプス電気・オリジン電気・オルガン針・北沢産業・鬼怒川ゴム工業・共栄電工・クラフテック・グロリー工業・興亜電工・小森印刷機械・コバル電子・サンケン電気・産業経済新聞社・三和大米電機・信越化学工業・積水化学工業・タムロン・ダイジェット工業・タムラ製作所・タケダ理研工業・立山アルミニウム工業・大和ハウス工業・デーエチケールメック・トリオ・東京日産モーター・東京電気・東京電気工務所・東京三洋電機・東武ストア・東和サン機電・ナカミチ・ニッセキハウス工業・日本ビクター・日本国土開発・日本ビジネスコンピュータ・日本通信建設・日本瓦斯・日榮建設工業・日信工業・日東建設・日立コンデンサ・富士電気化学・松下電器産業・ミツウロコ・ミネベア・三菱スペースソフトウエア・武蔵工業・吉田工業・リコー・リズム時計工業

（野村 隆・就職指導室主任）

同窓会のこの一年

大学の真の名前は、卒業生が社会の中でどのような活躍をしているかによって左右されるものである。同窓会もそのまとも役として一翼をなっている。これはければならない。この一年間の同窓会の活動は、支部の設立、同窓会会館の計画等と急速に盛り上がりつつあり、大学の歩みに遅れをとらぬまでになった。

このような同窓会の活動を支えている人達は、ほぼ月に一度の役員会に手弁当でかけつけ、支部の設立総会があるといえは仕事が終わってから、または休んでかけつけてくれる。全国の同窓生との連帯、各地域で活躍している人達とのめぐり合い、これはどんな苦労をしてもやがいのあることだからであろう。

支部総会はいよいよ土曜日の

〔前号の記事訂正〕

本紙三十一号の一面、「三浦学長再任」の記事中、十二月一日付学長再任とあるのを、十二月二十日付に訂正させていただきます。